

システム開発、データ分析、Web構築・・・

クラウド? オンプレミス?
どれが一番最適なの??

コンプライアンス上、データをクラウドに出せないがどうするべきか・・・

テストしてからシステムリリースまでもっと楽にできないだろうか?

DR環境の維持コストは抑えられないのだろうか?

答えはハイブリッドだ!

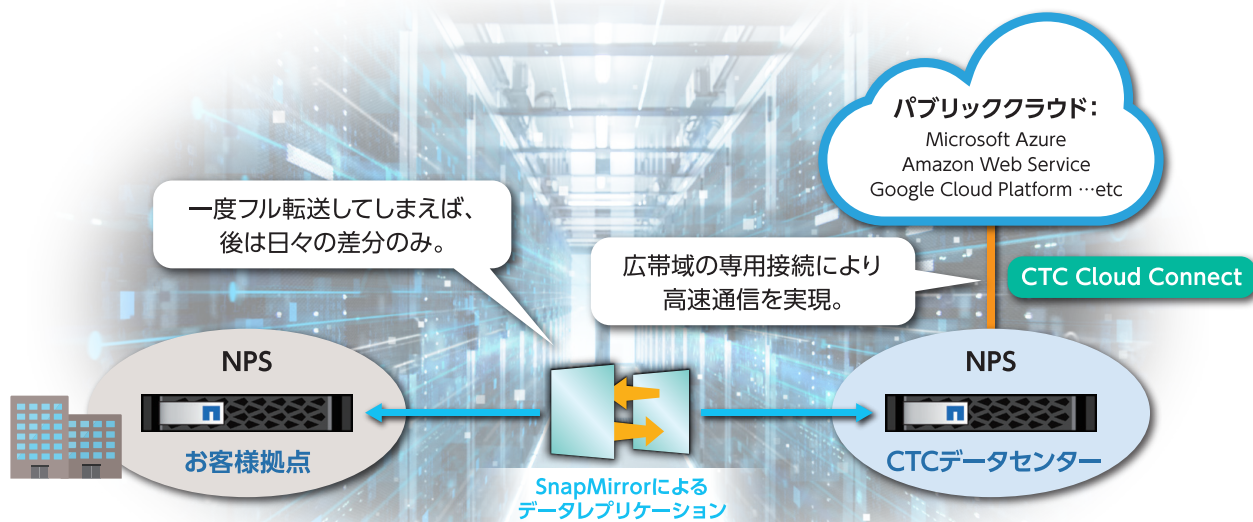
クラウドサービスと
オンプレミスを効率的に活用

NetApp

クラウド連携ソリューション

in CTCデータセンター

NetApp Private Storage (以下NPS) をCTCデータセンターに設置することにより、データの完全なコントロールを保持したまま、パブリッククラウドのコンピューティングリソースを最大限に活用することが可能となります。



3つの
メリット

柔軟なリソース活用
コスト低減化を実現

NPSの機能を利用することで、ニーズに合わせてコンピューティングリソースを臨機応変に活用可能。パブリックとプライベートの双方のクラウドリソースを自在に活用でき、コストを最小限に抑えられます。

信頼性の高いネットワーク提供
セキュリティへの懸念を払拭

コンピューティングリソースとストレージの接続はインターネットを経由しないお客様専用ネットワークで結ばれているため、セキュアな環境で利用する事が出来ます。

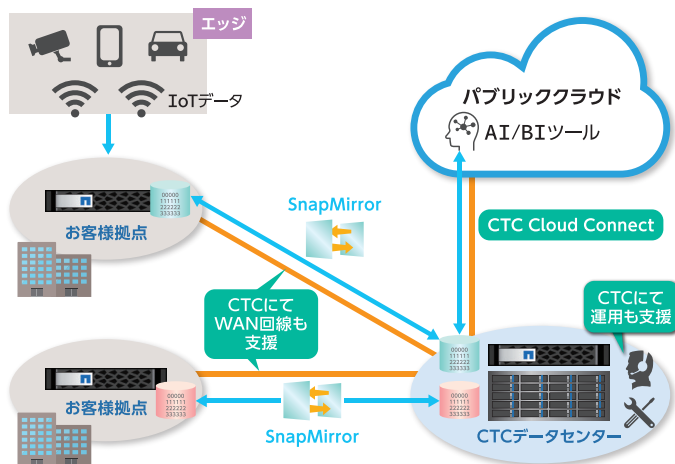
資産を抱える運用
負荷をサービスが解決

CTCデータセンター内の物理的な資産はCTCの資産としてサービス提供が可能であるため、NPSを抱える事に対する運用負荷を軽減する事が可能です。

あらゆるシーンで活躍が期待できる

NetAppクラウド連携ソリューション in CTCデータセンター

セキュアにハイブリッドクラウド環境を実現



課題

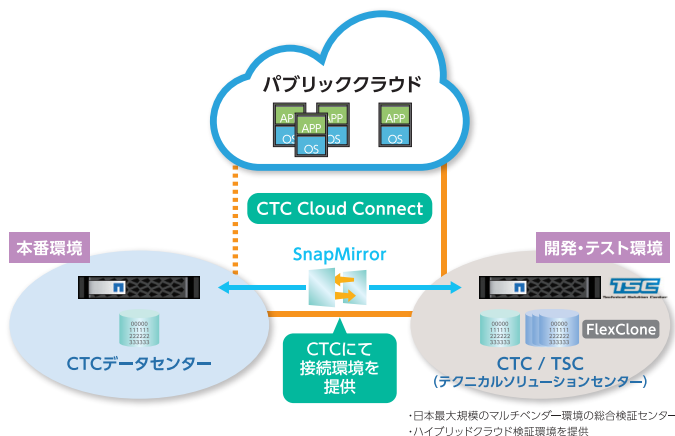
データをクラウドに出せないがクラウドのコンピューテリソースを使いたい

改善

データはNPS上にあるのでセキュアに管理することが可能

エッジで取得したIoTデータをCTCデータセンターのNPSに複製し集約。データはオンプレに残したまま、セキュアにパブリッククラウドのAI/BIツールを使用可能。

開発・テスト環境から本番環境へシームレスに移行



課題

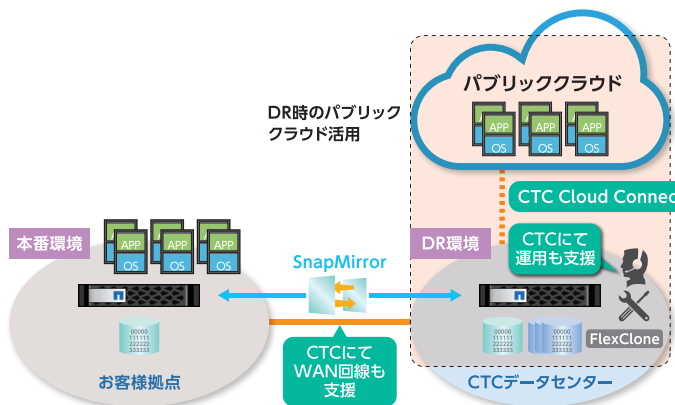
テスト環境から本番環境への移行が困難

改善

テスト環境と本番環境を同一構成で構築し、シームレスに移行可能

CTCテクニカルソリューションセンター(以下TSC)を利用することにより、本番環境と同一構成での評価・検証を実現。TSCでテスト・開発した環境をシームレスに本番環境へ移行可能。

DR環境の維持コスト削減



課題

DR環境の維持管理コストを抑えたい

改善

パブリッククラウド活用によるコスト削減を実現

パブリッククラウド上にDR環境を構築。通常時は環境を停止しコストを削減。また、SnapMirrorによってお客様拠点とCTCデータセンターのNPSのデータを定期的に同期。有事の際はパブリッククラウド環境を起動し、CTCデータセンターのNPSデータを参照することでDR環境への切り替え、迅速なビジネスの再開が可能に。